

ご挨拶

日本イメージ心理学会第14回大会を静岡の地でお引き受けさせて頂くことになりました。静岡では、日本イメージ心理学会第6回大会に引き続き二度目の開催となります。前回の第6回大会では、「イメージと身体」をテーマとし動作法のワークショップを開催させて頂きました。引き続き14回大会では、「イメージと身体」をテーマとし、身体と密接に関わりあっているスポーツ場面でのイメージ機能の実態を垣間見つつ、身体系に関わるイメージ研究の動向や今後の展望についてご教授頂く機会を設けたいと考えています。

会員の皆様はもとよりイメージ研究に関心がある方々、スポーツ指導者に携わっておられる方々、イメージそれ自体に関心がある方々などに対し示唆に富む情報を発信し、互いの研鑽の場をご提供できればと思います。何かと不行き届きな点が多々あるかと存じますが、多数の御参会をお願い申し上げます。

日本イメージ心理学会第14回大会 大会長 笠井仁
準備委員 一同

日本イメージ心理学会(JIA)第14回大会のご案内

1. 会期・会場

会期：2013年11月30日（土）・12月1日（日）

会場：常葉大学静岡キャンパス瀬名校舎 〒420-0911 静岡市葵区瀬名 1-22-1

メイン会場：本館4階414教室／運営委員会会場：本館3階326教室

共催：静岡大学人文学部・常葉大学教育学部

1-1 交通案内

□ JR静岡駅→静岡キャンパス

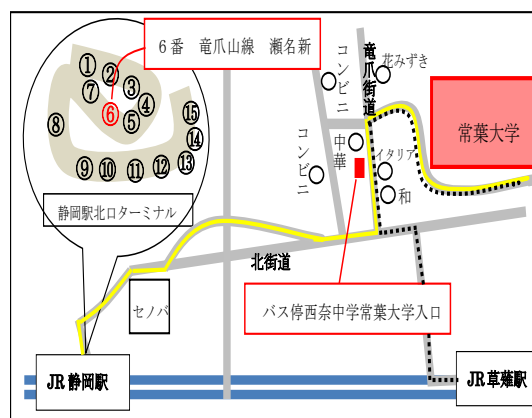
・しずてつジャストラインバス静岡駅北口6番のりばから、『竜爪山線(瀬名川経由) [61] 瀬名新田行』または『竜爪山線 [63] 則沢行』に乗車。
(約30分、運賃：340円)

・「西奈中学・常葉大学入口」で下車、徒歩5分

□ JR草薙駅→静岡キャンパス

・しずてつジャストラインバス草薙駅前バス停留所から『草薙瀬名新田線 瀬名新田行』に乗車。
(約15分、運賃190円)

・「西奈中学・常葉大学入口」で下車、徒歩5分



※詳細につきましては、しずてつジャストライン インターネット バス時刻表 “なんじ? 君” をご参照下さい。

1-2 バス停から常葉大学までの道順

バス停を降りましたら、そのままバス進行方向と同じ方向にお進みください。約 200m 直進しますと、交差点がございます。その交差点（交差点の上方には、常葉大学の看板が設置されています）を右折して下さい。上り坂を道沿いに上れば、正門に着きます。正門から続く階段を上った正面玄関からお入り頂けば本館となります。本館には会場となる各教室までの案内表示を設置しておきます。案内表示にしたがってメイン会場・運営委員会会場までお越し下さい。

1-3 大会日程

第 1 日目 11 月 30 日(土)

運営委員会	11:30-12:30
受付	12:30-
研究発表 I	13:00-14:00
レクチャー第 I 部	14:15-15:15
特別講演	15:45-16:45
総会	17:00-17:30
懇親会	18:30-20:30

第 2 日目 12 月 1 日(日)

受付	8:30-
研究発表 II	9:00-10:20
レクチャー第 II 部	10:30-11:30
昼食	11:30-13:00
研究発表 III	13:00-14:00

特別講演

[第1日目 11月30日(土) 15:30-16:30]

司会：笠井仁(静岡大学)

見えないからこそ、見えるものがある

-全盲アスリートが語るイメージ-

講師 河合純一 氏

略歴

- 生年月日：昭和50年4月19日
- 1990年 15歳のとき全盲となる
- 1992年 バルセロナパラリンピック(銀2、銅3)
- 1996年 アトランタパラリンピック(金2、銀1、銅1)
- 1998年 早稲田大学教育学部卒業 舞阪中学校に教師に着任
- 2000年 シドニーパラリンピック(金2、銀3)
- 2004年 アテネパラリンピック(金1、銀2、銅2)
- 2008年 静岡県総合教育センター指導主事に着任
北京パラリンピック(銀1、銅1)
- 2012年 ロンドンパラリンピック(二種目入賞 4位、6位)



現在の主な役職

- 東京大学大学院教育学研究科附属バリアフリー教育開発研究センター協力研究員
- 日本パラリンピアンズ協会会長
- アジアパラリンピック委員会選手委員会副委員長
- 日本身体障がい者水泳連盟会長
- 静岡子ども文化フォーラム理事
- 浜松市やらまいか大使

講演の概要

スポーツにおいてイメージ獲得はパフォーマンスに大きな影響を及ぼしている。また、イメージ獲得において、視覚は重要な要素を占めている。こういった前提に立ち、全盲スイマーとしてパラリンピック6大会で金メダル5つを含め21個のメダルを獲得することができた理由を経験に基づき説明する。視覚障害者がどのようにしてイメージを獲得することができるかに迫る。

行為、モデル及びイメージ

菱谷 晋介

(北海道大学大学院 文学研究科)

イメージの最も一般的な定義は、知覚を生じさせるような実際の刺激が存在しないときに生じる、知覚に類似した体験、というものであろう。近年の研究では、視覚イメージの形成には視覚処理系が関わっているだけでなく、低次視覚野の賦活の程度が、鮮明度の個人差と相関することなども示されている (e. g., Cui *et al.*, 2007)。これらの結果は、イメージには、知覚の初期段階で形成された表象の再現 (Kosslyn, Thompson, & Ganis, 2006) という一側面があることを示しており、上記の定義とも確かに符合している。しかし、だからといって、イメージをこのような知覚主義とでも呼ぶべき観点だけから捉えるのは片手落ちであり、イメージという心理現象全体の理解にとっては不十分であろう。

イメージという現象には、シミュレーション主義とでも呼ぶべき立場に立たなければ、説明できない側面もある。たとえば心的回転など、イメージの操作に関する研究によって、イメージには仮定的状況に関する予測や可能性探索のための手段、シミュレーションの道具という、よりダイナミックな側面もあることが示されている。さらに、心的回転に関しては、その本質が、運動のプランニングと予測のシステムを用いた、運動の内的シミュレーションであることなども、明らかにされてきた (e. g., Kosslyn *et al.*, 2001)。

これらのことから自然に推測されるのは、「視覚」イメージであっても、その処理には視覚系のみならず、運動系も関与しているのではないかということである。事実、その可能性を支持する実験結果も報告されている。たとえば、Baddeley & Andrade (2000) は、手指による空間的なタッチングが鮮明度を低下させるという結果を、一方、菱谷・西原 (2007) は、イメージ内容に即した手指による描画動作は、鮮明度を上昇させるという結果を報告している。また Palmiero *et al.* (2009) は、

言語刺激によってイメージが喚起される時、イメージのモダリティに対応した感覚皮質の賦活と鮮明度の個人差の間には、強くはないが相関があり、また、それと同時に、どのモダリティの場合にも、前運動皮質が賦活するという報告を行っている。

これらの結果は、イメージの操作のみならず、生成や保持にも運動系が関わっていることを示唆している。そこで、本講演では、知覚主義的なイメージ観とシミュレーション主義的なイメージ観を統合し、イメージという心理現象を統一的に理解する試みとして、知覚系と運動系の両者が、イメージ処理過程には関与しているという立場から、「内的行為としてのイメージ」という新しいイメージ観を提案する。また、この立場から、いくつかの心理現象の説明や、新しい研究アイデアに関する議論などを行いたい。

引用文献

- Baddeley, A. D., & Andrade, J. (2000). Working memory and the vividness of imagery. *Journal of Experimental Psychology: General*, 129, 126-145.
- Cui, X., Jeter, C. B., Yang, D., Montague, P. R., & Eagleman, D. M. (2007). Vividness of mental imagery: Individual variability can be measured objectively. *Vision Research*, 47, 474-478.
- 菱谷晋介・西原佳吉 (2007). ワーキングメモリのモデルと信号検出理論に基づいたイメージ鮮明度査定能力の測定. *認知心理学研究*, 4, 103-115.
- Kosslyn, S. M., Thompson, W. L. & Ganis, G. (2006). *The case for mental imagery*. New York, NY: Oxford University Press.
- Kosslyn, S. M., Thompson, W. L., Wranga, M. & Alpert, N. M. (2001). Imagining rotation by endogenous versus exogenous forces: Distinct neural mechanisms. *Neuroreport*, 12, 2519-2525.
- Palmiero, M., Belardinelli, M. O., Nardo, D., Sestieri, C., Di Matteo, R., D'Ausilio, A., & Romani, G.L. (2009). Mental imagery generation in different modalities activates sensory-motor areas. *Cognitive processing*, 10 (Suppl 2):S268-S271.

レクチャーⅡ部

[第2日目 12月1日(日) 10:30-11:30]

司会：田辺 肇 (静岡大学)

身体知覚・運動制御とイメージ：脳活動計測からのアプローチ

ATR 認知機構研究所 今水 寛

自己の身体は、常日頃から自分とともに存在するものであり、その知覚は自己の認識に大きく影響する。また、他者の身体を知覚することは、対人関係の第一歩であり、コミュニケーションや社会的な交渉の基礎となる。このような重要性を裏付けるように、脳の中には、身体の知覚やイメージに特化した神経機構が多数あり、自己や他者の身体に関する情報はとりわけ重視されていることが伺える。本レクチャーでは、身体の知覚と制御、イメージに関連するいくつかの神経機構に着目し、その機能と意味を概観する。

【身体の画像や動きに応答する視覚領域】 後頭部の下方にある紡錘状回顔領野は、顔の画像に特異的に反応する脳の領域として良く知られている。後頭部の外側には、手や足などの身体画像に応答する領域もあり、有線外皮質身体領野(Extrastriate Body Area: EBA)と呼ばれている。EBRの近辺には、画像を見せなくても、自分の身体を動かしたときに活動する領域がある。このような専門領域の存在は、知覚の早い段階から、自己や他者の身体運動情報が特別なものとして処理されることを示す。

【運動による身体知覚の変化を予測する神経機構】 身体の状態は、視覚や体性感覚を通して知覚される。しかし、感覚情報処理には時間がかかり、体を動かした結果を知覚してから修正するのでは、修正が間に合わなく、動作がぎこちなくなる。脳が身体に対して出す運動司令のコピーを受け取り、次の瞬間の身体の状態や、その状態における感覚を予測するメカニズムが脳内にあることが知られている。これは内部モデル(順モデル)と言われており、運動結果の予測や、素早い運動の修正に重要な役割を果たすとともに、運動イメージの生成に役立つと考えられている。

【多様な感覚情報を統合し、統一的な身体像を構成する神経機構】 側頭葉と頭頂葉の境目にあたる側頭-頭頂接合部(Temporo-Parietal Junction: TPJ)は、様々な感覚情報を統合し、見えたり、聞こえたりする感覚情報が自己のものか、他者のものかを区別したり、自己の身体イメージを構成することに重要な役割を果たす。これに関連するいくつかの研究例を紹介する。

【今後の展望】 従来の研究では、身体を知覚する神経機構と身体を制御する神経機構は、別々の分野で研究されてきた。しかし、両者の機構は互いに影響を及ぼしながら、統一的な身体イメージを構成すると考えられる。最後に、身体知覚と運動制御を包括的に捉える必要性と、今後の方向性について考察する。

研究発表Ⅰ

第1日目(11月30日)13:00-14:00 座長:森本 琢

1. ビデオ映像の視聴がイメージ想起及びモチベーションに及ぼす影響

愛知東邦大学

○長谷川 望

東海大学

八百則 和

防衛大学校

小 塚 昭 仁

2. 大学サッカー選手への三角形イメージ体験法の応用に関する基礎的研究

防衛大学校

○小 塚 昭 仁

愛知東邦大学

長 谷 川 望

3. 描画内容に反映される直観像素質者の視空間記憶過程の特性について

北海道大学大学院文学研究科

○新 原 理 津 子

北海道大学大学院文学研究科

菱 谷 晋 介

研究発表Ⅱ

第2日目(12月1日)9:00-10:20 座長 畠山孝男

1. VVIQ, MRT 得点と折り紙成績の関係に関する事例的研究

北海道大学大学院文学研究科

○今 井 史

北海道大学大学院文学研究科

菱 谷 晋 介

2. 新しい視覚的イメージ容量課題の作成と評価

北海道大学大学院文学研究科

○森 本 琢

3. fNIRSを用いたイメージ想起時の脳内活動の検討-Eidetic Imagerとnon-Eidetic Imagerの比較-

岩手大学人文社会科学部

○松 岡 和 生

岩手大学人文社会科学部

山 口 浩

4. 移動経験の蓄積に伴うパス知識と配置知識の獲得-行動データと発話の分析を通して-

北海道大学大学院文学研究科

○中 村 真 理 香

北海道大学大学院文学研究科

菱 谷 晋 介

研究発表Ⅲ

第2日目(12月1日)13:00-14:00 座長:石原次郎

1. 中学生における死のイメージと対象の具体性の関係

児童養護施設二葉園

○金 谷 友 梨 亜

東北文教大学人間科学部

畠 山 孝 男

2. 修飾句付加による感情刺激の作成-視覚イメージ対象としての使用を目的として-

茨城大学

○本 山 宏 希

北海道教育大学旭川校

宮 崎 拓 弥

北海道大学大学院文学研究科

菱 谷 晋 介

3. 身体知獲得におけるイメージ鮮明性とイメージ教示の関連

筑波大学人間学群心理学類

○北 本 遼 大

静岡大学

笠 井 仁